

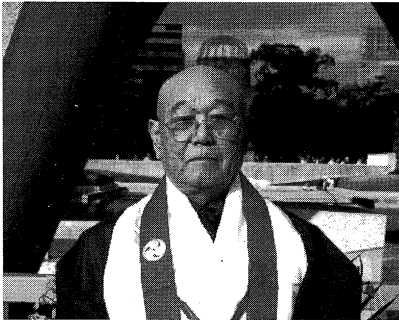
市仏連会報

発行所
 横浜市中区大平町96
 光明山西有寺内
 横浜市仏教連合会
 電話(045)661-0166

会長挨拶

横浜市仏教連合会
 会長 齊藤 隆法

本年もあたらしい年を迎えて、皆様には益々ご健勝にておすごしのことと拝察し大慶に存じます。不況の風が吹く今日此頃ですが昨年より不況の二文字を引きずって年が明けたような気がいたします。



去る二月十一日にはお釈迦さまの涅槃会が緑青葉区仏の担当で緑区長津田の大林寺の会館で修行されました。担当の区仏のご寺院方のご協力で感謝すると共に多数の参拝者があり盛会であったことに、あらためて感激をいたしております。市仏連としては一つの大きな行事を終えてほっとしております。また、いつも共に活躍する積尊奉讃会のみなさんの努力も忘れてはなりません。毎年のことですが、年の始めに

はいろいろな事を考えて見るのですがなかなか思うようにはいかないのが昨今の世の中です。今年一年どうか幸せであり何事も無事息災な年であるようにと神仏に願う心はみな同じであらうと思います。最近の国内外の情勢は、民族国家政治経済など複雑にいろいろみだれ、特に不況はきびしく混とんとしております。このような中で迎えたあたらしい年だけに、せめて今年こそはよい吉年であり、お互いの心がかよい合い奉仕と感謝の気持ちを大切にして相互扶助の日常でありたいと願うものです。

市仏連の行事の一つである六月の一日日帰りバス旅行は今年は茨城県奥久慈寺院を参詣する予定です。ご案内が行きましたらご参加ご協力をお願い申し上げます。終りに日頃の心あたたまるご配慮ご協力を感じ申しあげ、寺門興隆とご寺族皆様のご健勝をご祈念申しあげます。

県慰霊堂出仕当番表

- 平成11年4月5日(月) 泉区
- 平成11年6月7日(月) 瀬谷区
- 平成11年10月5日(火) 都筑区
- 平成11年11月5日(金) 緑・青葉区
- 平成12年1月5日(水) 南・港南区



理事会 10・12・4

理事会報告

平成十年十二月四日に、定例の理事会が行われた。主な議題は、秋の団参報告、第24回涅槃会の件、選考委員会の件。また、次年度総会は5月25日(火)に、春の仏跡参拝は業社提案の中から「袋田の滝」方面に決定。出席者21名。

選考委員会発足

次年度は、市仏連役員改選に当たするため、次期役員選考委員会が発足した。選考委員のメンバーは次の六名である。

- 委員長 都筑区 夏見邦夫
- 委員 緑・青葉区 内野公雄
- 委員 泉区 丸地良信
- 委員 保土ヶ谷区 旭区 吉川瑞浩
- 委員 神奈川区 守長尚文
- 委員 磯子区 鷺雄興勝

市仏連役員名簿

- 名誉会長 板橋興宗
- 顧問 志村慎吾
- 顧問 柳下隆侃
- 顧問 森山正城
- 顧問 滝川覚道
- 顧問 横山敏明
- 顧問 福永隆昭
- 顧問 斎藤隆法
- 副会長 玄野孝善
- 副会長 川上敬吾
- 副会長 林田眞成
- 専務理事 橋下賢明
- 計 時局対策委員長 佐藤功岳
- 会報担当 備前恭忍
- 会報担当 関水俊道
- 監事 野沢隆幸
- 監事 内野公雄
- 他役員 常務各理事 遠藤隆也
- 顧問 弁護士

各区仏教会長

- 鶴見区 宗泉寺 横井久運
- 神奈川区 本覚寺 守長尚文
- 西区 順忍寺 織田正尊
- 中区 東福院 上柳毅明
- 南・港南区 興禅寺 市川智彬
- 保土ヶ谷・旭区 三仏寺 吉川瑞浩
- 磯子区 大聖院 鷺雄興勝
- 金沢区 龍華寺 和田大雅
- 港北区 東照寺 程木徳明
- 都筑区 宗忠寺 夏見邦夫
- 緑・青葉区 弘聖寺 内野公雄
- 戸塚区 福泉寺 岩波道俊
- 瀬谷区 最勝寺 柳沢柳丸
- 泉区 宝心寺 丸地良信
- 栄区 大誓寺 塩沢栄一

(平成11年1月現在)

職の話や説教に耳を澄まして心を込めて聴き入ったものでしょう。その意味では、今のラジオやテレビの役割を担っていられたと言えます。私共も感謝しながら楽しんでラジオの番組をつくっております。

心を通わすコミュニケーションは言葉を交わすことに始まります。末期ガンにかかってホスピス、或いはピハールに入っている患者さんに対して効果のある手当は、褒める、体を触る、勇気を与えることなんだそうです。その意味でラジオは大変有効な（コミュニケーションの）力を持っていると思います。

啓 白 文

謹んで大恩教主本師釈迦牟尼仏、別しては本尊界会一切の三宝の境界に敬つて申す。

時に維平成十一年二月十一日釈迦遺法の弟子ら謹んで香花茶葉の饌をもつて敬つて双林涅槃の像に献ず、けだし聞く釈迦世尊は一代の本師として四部の弟子を撫で、三界の慈父として六種の群迷を導く。三祇の苦行はひとえに我等の痛狂を扶け五時の教養はいづれも衆生の心病を療す。恩徳至つて深し、報謝いかでか尽くさん。すでんじて一化八十余年の春、婆羅林変じ二月三五夜中の天、梅檀新尺きぬ。しかりといえども如来荼毘の処、舍利なお留まり聖象啼哭の砌、旧跡之残り、料りしれん。

終了後の反響 懇親会は窓越に雪を見ながらの和やかな会となつた。(編集子 記)



国王大臣は象馬車乘を退けて歩みを説法の昔の場に運び、長者居士は財宝供具を捧げて誠を円寂の古の跡にいたすものか。茲に某申わずかに末法の世に生れて上古の利益にもれたることを恨み、おしむべくも辺地の身を受けて中天の遺跡を隔つてを悲しむ。よつて今、凶絵の仏像を拜して三十二相涅槃の粧いをおもひやり、泣くなく供養の講席を莊つて、ただ五十二類悲歡の情に擬するものなり。庶い願くば大聖哀憐して遺弟の微供を納受し給え、依つてこの故に謹んで妙典妙法運筆経觀世音菩薩普門品の偈を誦して靈位菩提の現証に資せん。

乃至法界 平等利益
平成十一年二月十一日
横浜市仏教連合会会長
齋藤隆法 敬白

秋の奉讃会参拝旅行

原爆慰霊と萩・津和野の旅

市仏連主催の秋の仏跡参拝旅行が、平成十年十一月十日〜十二日に広島・山口方面を訪ねて実施されました。

午前十時三十分羽田空港に集合、お天気に恵まれ十一月とは思えない陽気です。一路、広島空港まで一時間十五分着き、観光バスで原爆ドームのある平和公園に到着。昭和二十年に原爆が投下されて五十有余年、草木も生えることはないといわれた投下地点も、今は草木が生い茂り、紅葉が大変美しかった。午後二時半ころ、市仏連会長の導師で行われた慰霊法要の説経が流れる中、犠牲者の霊に香々しいお線香がたむけられ、供養が厳肅にいとなされました。

その後、資料館を見学。いたいたしい当時の広島の写真や焼けただ

れたレンガ等を見ると、いかに大きな犠牲者が出たか目の前で理解することができました。もう二度と戦争はしたくない、そして、多くの犠牲者のご冥福を祈る気持ちでいっぱいでした。その後、宮島に船で渡り一泊しました。

二日目は、宮島の厳島神社に参拝。海にそびえ立つ鳥居の大きさに驚いてしまいました。再び船で広島に渡り、バスで中国道を一路西へ。お昼頃に津和野へ到着。昼食後、茅葺屋根が美しい曹洞宗の名刹永明寺へ参拝、ご住職から法話をいただきました。その後、あちこちに「つわぶき」が咲き、水路には鯉が泳ぐ津和野の町を散策し、石州和紙工場、旧森陽外宅の見学、そして、秋吉台を散策して湯本温泉に午後五時ころ到着。まずは温泉で疲れを癒し、最後の晩とあつて宴会はにぎやかに、カラオケの歌が響きました。

三日目は、宿近く、大内義隆公自刃の地、曹洞宗大寧寺へ早期の参拝から。日本海側の長門を経ていよいよ萩へ着き、蒲鉾工場を見学し、黄檗宗東光寺へ。ここは毛利氏の菩提寺で、本堂の裏には五〇〇基をこえる石灯籠があり、吉田松蔭、高杉晋作、久坂玄瑞等のお墓もありました。そして、明治維新胎動之地の碑のある松蔭神社に参拝。吉田松蔭がまつられるこの神社の境内には、高杉晋作、伊

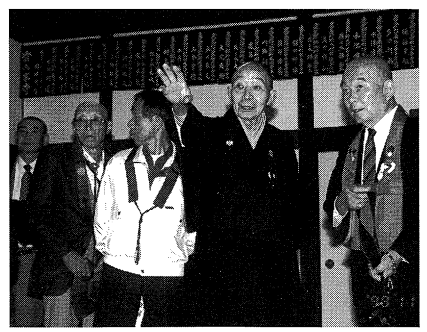
藤博文などを生んだ松下村塾が保存されています。昼食後、萩焼きの窯元を見学し、武家屋敷の散策をして、山口へ移動。香山墓所、洞春寺、最後は瑠璃光寺を参拝しました。ここは、高さ三十一・二メートルの総檜木造の国宝五重の塔があり、西京のシンボルとなっています。回りに池泉回遊式庭園がありとても素敵なお寺でした。何よりもその若住職が熱心にお話を下さり、お寺の奥さんがお菓子と温かいお茶を接待下さったことが心に残りました。

午後七時五分宇部空港を後に帰浜しました。長い歴史の中で戦乱の数々の足跡を残しながらも、美しい自然と共に現代に生きる西国

の旅情を味わわせていただいた素晴らしい旅となりました。参加者四十五名、参加寺院は次の通りです。

福聚院、長昌寺、東照寺、東泉寺、見光寺、松蔭寺、海照寺、保福寺、最勝寺、西有寺、宝樹院、西福寺。

(市仏連副会長 玄野孝善記)



永明寺住職の説明を聞いて

続・法会の配役

前号の本欄で紹介した「法会の配役」について、会員諸氏より温かなお声、詳細をお知らせいただきましたので、再度、細部を調べて紹介することとしました。

礼拝施設で行う仏事を一般に法会（ほうえ）と呼ぶが、他に法用・法要（ほうよう）、法事（ほうじ）とも呼ばれてきた。現在では葬儀以外の追善・年忌供養を法事と呼んでいる。また、法会の作法を法式（ほうしき）と呼ぶが、真言や禅宗では（ほうしき）と発音する。

法会の中心者

導師（どうし）という呼び名は各宗派共通であるが、時には大導師とも呼ばれる。ただし、天台では調声（ちようせい）、曹洞でも焼香師（しょうこうし）などと法会の内容によって別名で呼ばれることがあるが、導師であることに違いはない。

脇導師は、浄土宗などで設ける場合があり、副導師は真言系に見られる。曹洞のように葬儀導師などで仏事師として複数の導師を立てるとき以外には一人に限る宗派もある。

導師の介添役

導師の介添えをする僧も各派、それぞれの名で呼ばれている。真言は従弟子（じゅうでし）、日蓮は従者（じゅうしゃ）、浄土では役僧・伴僧（やくそう・ばんそう）、臨済は侍衣・侍香（じえ・じこう）、曹洞は侍者・侍香（じ

しゃ・じこう）、真宗は侍香・脇僧（じこう・わきそう）などと呼び、導師の脇に控えるか、陰に引いたりする。なお、天台では承仕（じようじ）の役の人がこの任を兼ねる。

法会の責任者

法式全体のディレクターとでも言うべき責任者についてであるが、天台・浄土・日蓮では会行事（えぎようじ）、真言では会奉行（えぎぎよう）、真宗では式司（しきじ）という。また、天台・浄土では会行事の上に会奉行を立てることがあり、さらに、浄土では会奉行の代わりに総司（そうし）を置き、会行事の下に式司（しきし）を置くことがあるという。

話 材 紹 介

禅宗系では、僧院内の仕事を各寮制で組織的に分担する性格が強いが、法会全体の式を執る役職として、臨済では総監（そうかん）を置き、この下に奉行を立てることがある。曹洞では都寺（つうす）職の別名、都管・総都管（とくかん・そうとくかん）を用いている。また、法式を行う道場は、住持が仏に代わって説法をするという意味で法堂（はつどう）と呼ばれ、ここでの指揮を臨済では知客（しかか）が担当し、堂内知客（どうないしかか）が総監の下で任に当たるのが一般的である。曹洞では法堂都管（はつどうとくかん）がその職に相当する。

後方に位置し、法会の進行をコントロールする。また、浄土宗の式司は古来より司会進行の役割を担うものであるが、近年、各宗でも時代に呼応して、放送機器を利用して「司会」「法要解説」などの係を立てることが多くなった。

法会のサポート・道場係

前項の責任者の下にあつて、道場の準備から進行全体をサポートする係も各宗派で定められている。天台・真言は承仕、浄土・臨済は殿司（でんす）、曹洞は知殿（ちでん）とその下役の殿行（でんなん）、真宗では加役（かやく）。また、禅宗系では須弥壇（じゆみだん）役として侍真（じしん）を別に立てることがある。日蓮では

特に名称を持たない会行事配下の下役の僧が任に当たる。

法会に列席する人

一方、法会に参列する出仕僧らのうち、導師を囲むように列席する役名にも違いがある。これらの僧は、それぞれに役職を分担して任に当たつていて、色袈裟を着て列席したため色衆（しきしゆう）と呼ばれていたが、現在、真言では役職に由来するためか「職業」と書き、配役の上位の順に一鑑、二鑑（にろう）……と称せられている。しかし、天台・浄土・臨済・日蓮の各宗では「式衆」という同音異字で呼称されている。また、真宗では、法中（ほうちゆう）、出仕者（しゅつししゃ）と呼ばれ

る。曹洞では、管理・運営を担う役寮である知事（ちじ）が東側に位置し、修行方面の役寮である頭首（ちようしゆ）が西側に位置して対峙することから両班（りようばん）または両序（りようじよ）と呼ばれている。

式衆（職業）以外の出仕僧を真言では随喜と呼ぶが、禅宗では出仕そのものを随喜と呼んで、式衆、両班以外の僧を大衆（だいしゅう）、後両班（こうりようばん）、尊宿（そんしゆく）などと呼称する。

経文の発声元

経文の発声元を担当する役名も様々である。天台では始経（しきよう）、真言では経頭（きようとう）、浄土では維那（いな）というが、禅宗では同じ字で（いの・いのう）と発音する。日蓮では鑿座（きんざ）、真宗では調声人（ちようしようにん）と呼ばれる。これらは、式衆など列席の僧が任に当たるのが一般的である。

回向文を読む僧

回向文は本来は導師が唱えるべきものであるが、禅宗系では香語（法語）を導師が行い、回向を維那が代行する。天台でも始経が、真言では経頭や、上位の職業（上座）が代わつて一部を唱えることがある。また、香語に相当するものを浄土、真言などでは祭文（さいもん）、啓白文（けいびやくもん）などと呼び、導師・脇導師が唱える。

鳴らし物の役

鑿子、鐘、木魚などの音声具（鳴らし物）は、各派、種類も様々である。密教系、浄土、日蓮は式衆（職業）が担当するが、臨済では玉鑿子（ぎよりんす）、曹洞では堂行（どうあん）、副堂（ふくどう）、鐘司（しようす）、送迎（そうげい）などを別に立て、殿行（前説）にもこの種の仕事があるという。また、雅楽演奏の担当者は一般的に「楽僧」と呼ばれ、浄土では薬師（がくし）、真言では伶人（れいじん）、楽人（がくじん）という名で式衆の位置、または別の列に配置される。



以上、まとめだが、各宗派によつて法式の性格、形態が異なるため、仕事の範囲も同じ枠組とは言えないものもある。法会における役割を知るためには、各宗門の理念、法会のねらいを理解しなければ判明しないことを痛感した。表については、前号を参照して頂きたいが、真言の欄に「式衆」と記したのは正しくは「職業」の誤りであった。お詫び訂正申し上げます。

祈 萬堂清福

横浜市仏教連合会参与
天台真盛宗新善光寺住職

福 永 隆 昭

〒232 0002 南区三春台一三三
電話 二三二一五七五四

横浜市仏教連合会会長

高野山真言宗福聚院住職

斉 藤 隆 法

〒224 0053 都筑区池辺町二二九六
電話 九四二一八七七五

横浜市仏教連合会会計
浄土宗浄念寺住職

橋 下 賢 明

〒234 0056 港南区野庭町一八四三
電話 八四二一七二八八

横浜市仏教連合会顧問
曹洞宗西有寺住職

横 山 敏 明

〒231 0859 中区大平町九六
電話 六六一〇一六六

横浜市仏教連合会副会長
曹洞宗長昌寺住職

玄 野 孝 善

〒241 0822 旭区さちが丘五九
電話 三九一一一三七九

横浜市仏教連合会常務理事
西区仏教会長

真宗大谷派順忍寺住職

織 田 正 尊

〒220 0072 西区浅間町五一三八六一九
電話 三一五一五二〇七

横浜市釈尊奉讃会事務局長

港北区仏教会長
曹洞宗東照寺住職

程 木 徳 明

〒223 0053 港北区綱島西一十三一十五
電話 五三一一一七八三

横浜市仏教連合会常務理事
金沢区仏教会長
真言宗御室派龍華寺住職

和 田 大 雅

〒235 0005 磯子区東町六一二〇
電話 七五十一〇六七十

横浜市仏教連合会監事
緑・青葉区仏教会長
曹洞宗弘聖寺住職

内 野 公 雄

〒226 0014 緑区台村町五四九
電話 九三一―二五二二

横浜市仏教連合会常務理事
南・港南区仏教会長

曹洞宗興禅寺住職

市 川 智 彬

〒232 0007 南区清水ヶ丘二二二五
電話 七五一―〇六七二

横浜市仏教連合会常務理事
磯子区仏教会長

高野山真言宗大聖院住職

鷺 雄 興 勝

〒235 0005 磯子区東町六一二〇
電話 七五一―〇六七二

横浜市仏教連合会常務理事
神奈川区仏教会長
曹洞宗本覚寺住職

守 長 尚 文

〒 221-0057 神奈川区高島台一―二
電話 三三二―〇一九一

横浜市仏教連合会顧問弁護士

遠 藤 隆 也

〒 221-0022 (自 宅) 神奈川区白幡上町一八四
〒 110-0015 (事務所) 台東区東上野二―一八―七
電話 〇三―八三―二二八一九

横浜市仏教連合会常務理事
瀬谷区仏教会長
真宗大谷派最勝寺住職

柳 沢 柳 丸

〒 246-0021 瀬谷区二ツ橋町三三七―一
電話 三六二―一六〇七二

横浜市仏教連合会副会長
臨濟宗建長寺派松蔭寺住職

川 上 敬 吾

〒 230-0077 鶴見区東寺尾一―一八―一
電話 五七一―一七〇一

横浜市仏教連合会常務理事
都筑区仏教会長
浄土宗宗忠寺住職

夏 見 邦 夫

〒 224-0053 都筑区池辺町二七〇四
電話 九四二―四二七六

横浜市仏教連合会時局対策委員長
日蓮宗大圓寺住職

佐 藤 功 岳

〒 231-0859 中区大平町九四
電話 六四一―四九三三

横浜市仏教連合会理事
鶴見区仏教会長
浄土宗宗泉寺住職

横 井 久 運

〒 230-0075 鶴見区上の宮二―二四―三
電話 五八一―九三二〇

横浜市仏教連合会理事
保土ヶ谷・旭区仏教会長
浄土宗三仏寺住職

吉 川 瑞 浩

〒 241-0024 旭区本村町七六
電話 三九一―一三〇七

横浜市仏教連合会報担当
曹洞宗東泉寺副住職

関 水 俊 道

〒 245-0017 泉区下飯田町七四三
電話 八〇二―八〇九七

横浜市仏教連合会専務理事
浄土宗見光寺住職

林 田 眞 成

〒 240-0004 保土ヶ谷区岩間町二―一四〇
電話 三三一―〇六〇七

横浜市仏教連合会報担当
真言宗豊山派西福寺住職

備 前 恭 忍

〒 246-0037 瀬谷区橋戸三―二二―二
電話 三〇一―六一三四

横浜市仏教連合会御用達
東海ビーエス観光株式会社社長

真 川 明

〒 240-0022 保土ヶ谷区西久保町一―一四
公園ハイツ二―一―一八
電話 三三四―三四〇〇

平成十年度の本委員会は、前年度の葬儀に関するアンケートの集計を行いました。

この結果は全会員のお手元へ直接お届けいたしますが、関心の高さに委員一同認識を新たに致しました。五百余通の発送のうち、住所不明等の諸事情により戻った数を差し引き、確実にお届けした数としましては四百八十七通あると存じます。この中で、アンケートにお応えいただいた方は一五四ヶ寺にもおぼります。今日の寺院へのアンケートといたしましては、異例の回収率と考えます。このことは、日頃、葬儀のあり方に関して納得のいかない方が多数おられる

時局対策委員会報告

委員長 佐藤 功 岳

るということを示しているとの判断出来るでしょう。

アンケートのとり方も種々ありますが、今回はできるだけ公平を期すことを前提に、僧分、業者にかたよることがないように設問を構成いたしました。

諸大徳の年齢や地域の差も伺いする必要あるとの意見もありましたが、極、基本的に、そして今後の仏教界の根幹に関わる問題を探るといふ点にてアンケートを構成いたしました。ですから、特段の意志をもったアンケートではないことをご了承くださいたく存じます。

さて、公益性を旨とする私共は、

情報収集や社会のニーズ、連帯等に於て営利目的の業者とは格段の相違があるのも事実です。そして、社会的な影響を考えた時、私共が黙過することにより、仏教界にとって不利な方向に運ばれているように理解しているのは誤りででしょうか。

今回のアンケートは、一ヶ寺一住職ではなく、一宗一派でもなく仏教会として行動すべき時が来たことを強く示唆しております。ご寺院諸大徳におかれましてはどうぞ、アンケートの集計を深解いただきたくお願い申し上げます。

当委員会といたしましては、お寄せいただいたご意見の中から、

次の四点を市仏連へ提言させていただきます。次年度以降の活動の基幹といたしたく存じます。

提 言

- 一、市仏連と業者団体との協議の場をつくる
- 二、市仏連名にて各寺院設置用の「HOW TO 葬儀(仮称)」等の檀家向手引書の作成
- 三、寺院側のあり方の検証
- 四、会員から、寺院の信頼を害なわせている「何デモ僧」に関する情報の提供を乞う。

尚、前アンケート以外にご意見ございましたら、委員までご通知下さい。

支部だより

西 区

恒例のことながら春の年度頭初に「釈尊降誕会」が東福寺様を会場として会員各位のご出仕により勤修され、市仏会長、斎藤隆法師のご法話もいただき、円成いたしました。一年が始まり、助け合いの箱も年末には総会の席上、集計せられ今年も例年に増してご協力をいただきました。同じ西区の「大魔神社」には及びませんが、各寺院、教会様の檀信徒皆様の善意がこのように寄せられていることに改めて深く感謝申し上げた次第です。

また、二月の新旧理事會に於て新役員を選出がなされました。会長・東福寺(真言宗)、副会長・万徳寺(曹洞宗)、立正寺(日蓮宗)、会計・大願寺(日蓮宗)、監査・東台寺(法華宗)と決定、ご就任をいただくこととなりました。会員諸氏のご協力のもと益々会務が充実してゆくことを期待しております。

金 沢 区

平成十年十一月七日(土)、午後二時より第三十七回、交通安全事故物故者追悼法要と交通安全大般若転読祈願法要が龍華寺において厳修された。当日は、遺族、警察署、交通安全協会の関係者に、奉讃会の会員を含めて約百名が参集し、盛大裡に終了した。

同年十一月二十八日(土)午後三時より、持明院において、講師を細淵慎一先生にお願いし、税務

講習会が行われた。

平成十一年一月十一日、元会長の金蔵院住職小西智道僧正が遷化され、十五日に通夜、十六日に本葬儀が執り行われ、会員多数が出席し盛大であった。

同年一月三十日(土)、午後四時より、千代本楼で、新年総会と懇親会が行われた。各行事の決算報告の後、区仏行事の見直し委員会の設置と、コロンビア地震の義援募金の件が追加決定した。

同年二月十五日、第三十九回涅槃会が伝心寺で厳修された。また当日勸募されたコロンビア地震義援金十六万五千円が十六日、日赤神奈川県支部へ急送され、大変感謝された。

同年四月四日(日)第五十三回花まつり大会が宝珠院で開催される予定である。(和田大雅 記)

戸 塚 区

十一月五日小春日和の和やかな日射しを受けて泉慰霊堂へ当番区として出仕した。何分始めての随喜なので様子がわからない。幸い区の北見総務が委細承知で万事手筈を整えてくれた。ただその流れに乗ってあげればよかったのでその点気は楽であった。

ご遺族の参加は百名を越えたであろうか、老境に入ったと思われる方々が多かった。

ここに眠る幾多の精霊、死の直前の命を思い何を考えたであろうか。人の命は簡単に捨てられるものではない。死はその重さに耐え得るものを求める。それは当時の願いとしては「祖国の繁栄」に尽きる

るのではなからうか。ささやかな経験からすれば、敵を目前にした時自然に武者震いをおこし、いつ逝つてもよい、国の為にならと思う。死に対する一表現は悪いが、対価を求めて満足する、そして緊張の裡に銃声、砲声の中に身を任せていく。

仏祀の願いと矛盾に逢着しながらも。

当時の人達の素朴にして純な気持ちをも更めて味わった。

日の中天に掛かる頃、法要を無事終了することができた。

主催者の泉宗連を始め、その他の関係者や、そして、戸塚区随喜の御寺院方に感謝しつつ山を下りた。

瀬 谷 区

瀬谷八福神が「広報よこはま」瀬谷区版新年号に記載され、四万八千余世帯に配布されました。知名度も上り、参拝者が増加しています。前回に引き続き当八福神を紹介させていただきます。

毘沙門天の徳善寺は、恵比壽様をまつる竹村町の善昌寺より南へ一・六キロメートル。宗派は曹洞宗、弘治元年(一五五五)創建。本尊は釈迦牟尼仏、開山玄室泰存禪師。ふるさとさんぼ道から、立派な総樺造りの平成仁王門を入ると、正面に本堂と庫裡。毘沙門堂は左側にあります。広大な境内地には、市の名木古木に指定された多羅葉、榎、公孫樹の見事な古木をはじめ、豊富な緑におおわれていて大変静寂で幽玄の感がします。

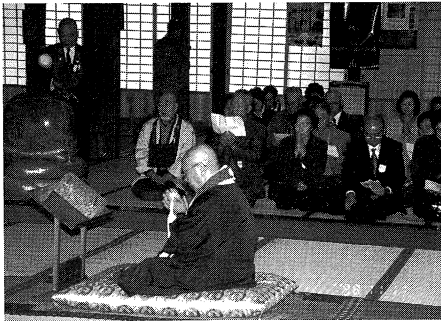
毘沙門天は多聞と訳し、仏法守

護の神、又、四天王の一尊として北方世界を守護、福德財富の神として尊崇を集め、信仰されています。堂の横には歌人福田二三男氏の筆による毘沙門天の歌碑『おん堂の奥処に在す毘沙門天忿怒のまなこさだかならずも』があり、短歌会等も催されています。その選者の熊沢正一氏の『葉桜としづまの結界に多羅葉の咲き散るひそけさも思ひみるべし』の平成九年に建立された歌碑も境内にみられます。八福草は萩です。

なお、当区仏の行事は例年の通り開催。当区仏寶藏寺住職青木大憲師が昨年来、体調をくずされ入院加療中、区仏一同、心からご回復を念じております。

保土ヶ谷・旭区

当区仏教会では、秋の仏蹟参拝を継続的に実施しております。十月十五日、台風の影響もあって小雨模様の中の出発となった。坂東三十三ヶ所巡礼の旅は、平塚市金



永明寺で読経する一行

目川のほとり第七番札所光明寺（金目観音）、第八番札所座間市星谷寺（星の谷観音）、今回は更に鎌倉の建長寺をお参りした。仏蹟参拝には四季折々の季節感と共に、汗を流して山坂を歩くことを含めての願成就の満足感もあり意義深いものがある。バス2代81名の参加者であった。次に、恒例の「成道会」を十二月五日に、旭区上川井町高野山真言宗長源寺に於て開催した。旧小机領子年観音霊場第二十七番の札所でもあり、川井の信徒を中心に庶民信仰の道場である。導師長源寺住職新居宝寿師のもと法要が始まり、その啓白文には「積尊成道の真意が述べられた。法要終つての記念講演は、「はまの女赤ひげ先生」と言われる、よこはま寿町診療所所長、医師佐伯輝子先生を講師に「生かされし命」と題して一時間以上のお話を拝聴した。約二十年間に亘る「寿町診療」を通して、さまざまな因縁に

かわり合いながらの、正に「生かされし命」の尊さを強調された。人生苦観の釈尊が「成道」せられたこの日の講演に相応しいお話しとして感銘深いものがあった。講演終つて一同ケンチン会食の後自由解散となった。

次に、歳末助け合い托鉢を、十二月十七日、JR保土ヶ谷駅前、相鉄線の天王町、鶴ヶ峰駅前にて実施、貴重な浄財は、神奈川新聞厚生文化事行団に寄託された。昭和五十九年開始以来十五回目の歳末托鉢である。

事務日誌

- 10.10.30 三役会議(四川飯店)
- 10.11.5 県慰霊堂(戸塚区)
- 10.11.10 秋の仏蹟参拝(広島山口の旅)
- 10.11.13 理事会案内発送
- 10.12.4 理事会、忘年会(天吉)
- 11.1.5 会報47号発送
- 11.1.5 県慰霊堂(栄区)
- 11.1.18 会報48号原稿依頼
- 11.1.20 涅槃会案内発送
- 11.2.3 涅槃会担当区との打合わせ(於大林寺)
- 11.2.11 第24会涅槃会(於大林寺「山水閣」)
- 11.2.15 奉讃会だより、春の仏蹟参拝案内発送
- 11.2.17 第一回選考委員会(於四川飯店)
- 11.2.20 会報48号第一回編集会議(於西福寺)
- 11.2.24 第二回選考委員会(於本覚寺)



涅槃会反省会(雪景色を背に)

第十六回春の団参案内

恒例の春の仏蹟参拝旅行を次の通り行います。(一部の案内所に(※)とあるのは(※)の誤りです。)

行先 茨城県奥久慈七福神(長福寺)と袋田の滝

期日 平成11年6月17日(休友引) 日帰り/雨天決行

旅費 九、〇〇〇円

申込 5月20日までに、各区仏で集計し、専務理事へ毎回、好評を得ております。各区御寺院のご協力をお願いします。

涅槃会担当区

平成十二年以降の涅槃会担当区は次の通りである。

- 第25回(H12年) 保土ヶ谷・旭区
- 第26回(H13年) 瀬谷区
- 第27回(H14年) 泉区
- 第28回(H15年) 栄区

編集後記

▲涅槃会の開催にあたっては、担当区仏の方々にお世話になった。今仁哲夫氏は、流石に著名アナウンサー、背筋が伸びて声がよく通り、原稿をまとめるのに有難かった。本文では紹介しきれなかった内容に放送界の人脈、ギヤフ、広告料等があり、興味津々。参加者の聞き得であった。興味ある方は朝四時半、ジョイフルモーニング二ツポンをお聞き下さいました。

▲話材紹介欄の記事として、「各寺院の寺報」に「禁看板(例、参詣者以外は駐車禁止、境内通り抜け禁止など)を企画中である。会員諸師の様々な情報提供をお願いしたい。

▲この度市仏連時局対策委員会が大変活躍し、ここに葬儀アンケートをまとめて発行した。

これを見ると、寺院と葬儀社との間に意志の疎通が欠けて、その故に、ギクシャクした問題が生じている。葬儀はもともと弔いと言って死者の霊をなぐさめ、供養するのが目的であるから、それを円滑に進めるにはどうしたら良いかを寺院と葬儀社とがディスカッションを持つ事が大切である。

地域の習慣、慣習、喪主や故人の意見を尊重し、一人ひとりを大切に葬送して上げたいものだ。

▲この度は市仏連役員任期満了にともない選考委員会を発足させ明日に向けて発展ある市仏連をきつくため人選に力を入れている。

市仏連は大きな地域仏教会であり、その運営が適切である事が望ましい。委員会の活躍を祈る。